

## 感染症定期報告感染症別文献一覧表(医療機器) (平成24年4月1日～平成24年9月30日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	Infect Genet Evol. 12(2012)428-434	中国におけるE型肝炎ウイルス(HEV)の系統発生分析に関する報告。1986年から2011年に中国のヒト及び動物から採取された626例のHEVに対し、ゲノムの系統発生分析が行われた。その結果、中国で広まっているHEVには3つの遺伝子型(1型、3型及び4型)があり、11のサブタイプがあった。2000年より前は1型が最も多く、特に新疆、北京、東部で検出されたが、最近10年間では遺伝子型4が最も多くの地域で確認され、1型を上回っていた。3型と4型はヒト及びブタで認められ、ブタからヒトへの感染が北東部、北西部、北部、東部、南部にて起きていることが示された。
2	E型肝炎	Infection, Genetics and Evolution. 11(2011)1732-1737	スロベニアにおいて発見された新規E型肝炎ウイルス(HEV)遺伝子型3に関する報告。6か所のスロベニア国内養豚場よりブタ糞便検体が採取され、HEV-RNAの検出を行ったところ、85例中15例(20.3%)がHEV-RNA陽性であったが、陽性の検体はほとんどが同一の養豚場で採取されたものであった。得られたHEV株のRNAについて、5'ORF1及び5'ORF2領域でゲノム分析を行った結果、両領域においてスロベニアHEVは独特な遺伝子型3であることが示され、既に知られるHEV遺伝子型3とは異なっていることが確認された。ブタから検出されたHEV株の中で1つ以外は配列の相同性が高く、系統樹の中で単系統の分岐を示した。一方で、スロベニアのE型肝炎患者から得られたHEV株3例の中でブタの新規遺伝子型3に一致するものは確認されなかった。
3	E型肝炎	Infection, Genetics and Evolution. 11(2011)618-623	中国で単離されたブタE型肝炎ウイルス(HEV)のゲノム分析に関する報告。中国のXinjiangにおいて単離されたHEVであるCHN-XJ-SW13の全ゲノムを、RT-nested PCR及びRACE法を用いて増幅し、90の既知HEV(遺伝子型1～4を含む)と比較した。また、宿主を特定する領域及び肝炎の重症度と関連する領域について配列アライメントソフトウェアを用いて調査された。その結果、CHN-XJ-SW13は遺伝子型4の新型サブタイプであることが示された。そして、25の特異的なヌクレオチド部位がHEVの宿主域を指定するか、あるいはE型肝炎の重症度の決定に関連している可能性が確認された。
4	E型肝炎	Intervirology. received Apr 27, 2012	フランスにおける2つの異なるサブタイプのE型肝炎ウイルス(HEV)の共感染の報告。2008年4月、腎移植の既往があり免疫抑制療法を受けていた65歳のフランス人患者が急性肝炎を呈し、HEV-RNAが検出されE型肝炎と診断された。さらに、2008年5月、6月、7月に採取された血清サンプルより遺伝子型3c、3eのHEVに共感染していることが確認された。患者は発症前に生と加熱調理したフィガテル(ブタ肝臓シーゼージ)を摂取しており、血清から分離されたウイルスの遺伝子配列は地元のスーパーマーケットに置かれたフィガテルから回収した2つのウイルス配列と酷似していた。
5	E型肝炎	J Clin Virol. 52(2011)155-157	中国におけるヒト及びブタのE型肝炎ウイルス(HEV)ゲノムの遺伝子型・サブタイプの地理的分布に関する報告。中国国内で得られたHEVの全ゲノム配列21例を対象に系統発生的分析を行ったところ、中国における主要なHEVは遺伝子型4であり、6つのサブタイプ(4a, 4b, 4d, 4g, 4h, 及び4i)に分類された。4iは本調査によって初めて同定された新規のサブタイプである。遺伝子型4が中国全土に広がっていた一方で、遺伝子型1と3は比較的地域が限定されていた。遺伝子型1はXinjiang及び北京のみにおいて確認され、遺伝子型3は上海付近に限定していた。
6	E型肝炎	J Clin Virol. 54(2012)197-200	フランスにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)遺伝子型4のヒト感染の報告。フランスにおいて、初めて遺伝子型4のHEV感染者が報告された。患者は急性骨髄性白血病で、E型肝炎の感染はHEV-RNA血症と抗HEV抗体の検出により診断された。分離されたHEVは遺伝子型4であり、中国のヒトとブタにおいて分離されたHEV株と高い相同性を示していた。
7	E型肝炎	PLoS One. 7(2012)e33480	異なる飼料を与えられたブタのE型肝炎ウイルス(HEV)保有率に関する報告。中国河北省において、飼料の違いによるブタのHEV流行性への影響を検討するために、台所の残飯を与えられたブタ31例と完全飼料を与えられたブタ245例について血清及び糞便中のHEV陽性率を調査した。その結果、台所の残飯を飼料とするブタでは血清中の抗HEV抗体の陽性率が87.10%であったのに対して、完全飼料のブタでは53.60%であった。また、糞便中のHEV-RNA陽性率については、残飯ブタでは61.54%だったのに対し完全飼料ブタでは陽性例がなかった。このことから、完全飼料を与えられたブタよりも台所の残飯を与えられたブタの方がHEV流行性が高いことが示された。
8	E型肝炎	World J Gastroenterol. 18(2012)965-970	中国におけるE型肝炎ウイルス(HEV)の遺伝子特性に関する報告。南京の急性E型肝炎患者62例の血清検体についてRT-PCRによりHEV-RNAの検出を行ったところ、13例において陽性であった、13例の分離株はそれぞれ82.1-98.0%のヌクレオチド相同性を有しており、HEV遺伝子型1-4に対してはそれぞれ74.7-81.0%、75.3-78.6%、75.3-80.0%、82.1-96.1%の同一性が認められた。また、ヒトHEV株の一つであるGS-NJ-12は内モンゴルのブタから分離されたHEV株swIM6-43と100%の相同性が認められた。

感染症定期報告感染症別文献一覧表(医療機器) (平成24年4月1日～平成24年9月30日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
9	インフルエンザ	Curr Top Microbiol Immunol. Jan 21, 2012	アジアにおけるブタインフルエンザウイルス(SIV)の特性に関するレビュー。アジアにおいて報告された新種のインフルエンザのほとんどは、ブタにおいて生息していた期間が限られていたと考えられる。しかし、1999-2009年に中国の複数の地域から収集された血清学的調査の結果、H5及びH9に類似するウイルスが依然としてブタ集団で少数ながらも循環していることが明らかとなった。これらのウイルスは軽度のインフルエンザ様疾患のブタから分離されたが、トリ類似H5N1遺伝子を持つH9N2再集合ウイルスの一部では罹患ブタが死亡した。対して、高病原性トリインフルエンザ(HPAI)H5N1ウイルスに感染したブタは比較的無症状であった。
10	インフルエンザ	Database. (2010)ID:baq004	ヒト及び動物に感染するインフルエンザウイルスのデータベースに関する報告。OpenFluデータベース(OpenFluDB)はインフルエンザウイルス株27,000以上のゲノム、タンパクの配列情報や、疫学的情報を含むデータベースである。付属情報としてウイルスタイプ、宿主、地理的分布及び抗ウイルス薬耐性情報も記載されている。本DBは多重配列アラインメントや系統発生学分析、配列類似性検索等のツールによって迅速で効率的な分析が可能となる。近年のブタインフルエンザのアウトブレイクでもウイルスの配列分析に有効に使用されている他、ワクチン選別時のツールとしても活用されている。
11	インフルエンザ	Emerging Infectious Diseases. 17(2011)1624-1629	米国における2009/パンデミックH1N1ウイルスと風土性のブタインフルエンザウイルスの再集合に関する報告。米国の農場のブタから検出された7つの遺伝子型に分類される9株の再集合ウイルス(2009/パンデミックH1N1/風土性ウイルス)に関して、ST細胞における複製性及びフェレットでの病原性について調査した。その結果、ウイルス複製性は再集合ウイルスと風土性ブタインフルエンザウイルスで差が示されず、フェレットでの病原性は2009/パンデミックH1N1と同様に軽度であった。
12	インフルエンザ	Influ Other Respir Viruses. 6(2012)e42-e47	オーストラリアのブタに感染したパンデミック2009インフルエンザA(H1N1)ウイルス(H1N1pdm)の系統発生分析に関する報告。オーストラリアの養豚場でアウトブレイクが起こったH1N1pdmウイルスとヒトの検体との関連を調べるため、ウイルスRNAに対してリアルタイムRT-PCR法及びゲノム解析を行い、系統発生分析を行った。クイーンズランドでのアウトブレイクから分離されたウイルスを分析した結果、ブタから2つの異なったウイルス株が同定され、同じ養豚場に從事する2例の労働者にブタと同じ株のウイルスへの感染が認められた。
13	インフルエンザ	MMWR. 60(2011)1615-1617	米国におけるブタインフルエンザウイルスA(H3N2)感染の報告。2011年11月、アイオワ州においてS-OtrH3N2に感染した小児3例が報告された。全員入院はしておらず、既に回復している。3例は互いに接触しており、最近のブタへの接触はなかった。S-OtrH3N2のヒト感染は未だアイオワでは他に確認されておらず、調査が進められている。今回の3例を含めて、近年S-OtrH3N2の感染が10症例報告された。このウイルスは北アメリカのブタの間で循環しているブタインフルエンザウイルスA(H3N2)とパンデミック2009年インフルエンザウイルスA(H1N1)との再集合体であると考えられている。
14	インフルエンザ	MMWR. 61(2012)561	米国におけるブタインフルエンザA(H3N2v)ウイルス感染の報告。2012年7月8-14日にインディアナ州で開催されたカウンティフェアでブタ及びヒトにて呼吸器疾患が発生し、州保健局が検査を行った。フェアへのブタ提供者及びその家族で呼吸器疾患を発症した4例の検査を行ったところ、全ての患者においてインフルエンザA(H3N2)ウイルス又はその変異ウイルス(H3N2v)が検出された。また、分離されたH3N2vウイルスに対して部分ゲノム解析を行った結果、インフルエンザA(H1N1)pdm09ウイルスのM遺伝子を持ったウイルスであることが確認された。
15	インフルエンザ	ProMED-mail 20120802.1225864	ハワイにおけるブタインフルエンザA(H3N2v)ウイルス感染の報告。2012年7月31日、ハワイ州保健局は、ブタとの接触のある仕事に関わるマウイ島の住民1例がブタインフルエンザA(H3N2v)ウイルスに感染したことを明らかにした。本ウイルスは、この1年間に米国本土の6州のみで確認されている。農業当局は、島内のブタに対し鼻のスワブ検査を行い、ウイルスの確認を行うことを計画している。
16	インフルエンザ	ProMED-mail 20120809.1236861	米国におけるブタインフルエンザA(H3N2v)ウイルス感染の報告。2012年8月8日時点で、変異型ブタインフルエンザ(H3N2v)感染の患者数は、インディアナ州で113例と急増し、オハイオ州でも前回報告の2倍の30例であると報告された。オハイオ州の30例について、患者は6か月から36歳までの範囲で、全ての患者がブタとの直接接触があった。ヒト-ヒト感染は認められていない。インディアナ州の症例については詳細は明らかとなっていない。

感染症定期報告感染症別文献一覧表(医療機器) (平成24年4月1日～平成24年9月30日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
17	インフルエンザ	PLoS One. 7(2012)e30328	インフルエンザウイルスに対するマクロファージでのサイトカインを介した宿主反応に関する報告。2009パンデミックH1N1ウイルスに感染したブタマクロファージにおける宿主反応についてin vitroで検討したところ、感染により炎症性サイトカインであるIL-6、IL-8、IL-10、TNF- $\alpha$ が誘発され、それらはERK1/2に依存することが示された。IFN- $\beta$ とIFN誘発Mxと2'5'-OASが強く誘発されたが、ERK1/2の抑制により誘発は抑えられた。また、CCL5(RANTES)はERK1/2及びJNK1/2の阻害により完全に抑制され、ブタマクロファージのアポトーシスにおいてFasLとTNF- $\alpha$ を制御していることが示された。NF $\kappa$ Bは感染細胞において活性化したが、それはERK1/2の抑制により阻害され、ブタマクロファージにおいてMAPキナーゼとNF $\kappa$ Bの間にcross-talkがあることが示された。これらの結果より、MAPキナーゼはRIG-1の誘導を介してNF $\kappa$ Bを活性化し、マクロファージにおいてIFN- $\beta$ の誘発に繋がっている可能性が示唆された。
18	インフルエンザ	ProMED-mail 20120209.1037688	ベトナムにおける新規ブタインフルエンザ感染の報告。ベトナム保健省は、A/H1N1及びA/H3N2インフルエンザウイルスの再集合と見られる新規のブタインフルエンザの発生が確認されたと発表した。ブタ由来A/H3N2インフルエンザウイルスの感染患者10例がモニタリングされたところ、そのうち3例にはブタとの直接的な接触が確認されなかった。そのため、ヒト間で伝播するブタA/H3N2の変異型である可能性を除外できないとされた。しかし、ウイルスの変化は小さく、病原性が低く薬剤耐性もないため、警戒すべきレベルではない、と述べられた。
19	インフルエンザ	The Pig Site. Apr 5, 2012	香港のと畜場におけるブタH1N1インフルエンザウイルスの検出に関する報告。2011年10月から2012年1月に、香港のと畜場において1500例のブタに定期的インフルエンザウイルス検査が行われたところ、1例においてヒトブタインフルエンザウイルス(pandemic H1N1)に陽性反応を示した。また、計27例において、一部ヒトブタインフルエンザウイルス遺伝子が含まれるブタインフルエンザウイルスが検出されている。
20	インフルエンザ	薬局. 62(2011)3623-3628	過去に流行したインフルエンザウイルスの被害状況に関する解説。2009年4月、メキシコにおいてブタ由来H1N1インフルエンザウイルスがヒトに伝搬し、米国に感染が拡大、最終的には全世界に広まった。日本では「新型インフルエンザ」と呼び、対策をとったが、1年3ヵ月を経て死者は全世界で2万人に満たなかった。これは季節性のインフルエンザに比較して極めて少ない。日本だけで毎年数千人の死者を出している「季節性インフルエンザ」をいかに克服するかが新型ウイルス対策の基盤となると考えられる。
21	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20120315.0614	香港における鳥インフルエンザ感染の報告。2012年3月15日、香港農業水産局は、ユリカモメとハヤブサ各1羽がH5N1ウイルスに陽性であることが確認されたと公表した。ユリカモメとハヤブサはそれぞれ香港のTuen Mun、Ma On Shanで3月上旬に発見されていた。
22	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20120418.0876	中国におけるH5N1鳥インフルエンザのアウトブレイクの報告。2012年4月18日、中国北西部の農業当局が、H5N1鳥インフルエンザウイルス感染流行の発生を受けて約95000羽のニワトリを処分したことが分かった。アウトブレイクが発生したのは、寧夏回族自治区で、23000羽のニワトリが発病したことから流行発生が確認された。当局によると、感染はコントロールされたとしている。
23	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20120604.1253	香港におけるヒトでの鳥インフルエンザ感染の報告。香港の保健当局によると、2012年6月2日にインフルエンザA(H5N1)感染が確認された2歳男児は、現在も入院中であり、依然として厳しい状態である。調査によると、患者は5月中旬に広州市の自宅付近にある家きんを扱う市場を訪れていた。当局の接触者調査によると、医療従事者2人が呼吸器症状を示したため、インフルエンザA(H5)の検査が実施されたが、陰性だった。
24	鳥インフルエンザ	Vet Pathol. Jun 25, 2012	ネコにおける病原性の低い鳥インフルエンザウイルス感染の病原性に関する報告。ネコの鳥インフルエンザに対する感受性を調査するために、北米の海辺の野鳥から得られたインフルエンザウイルスH1N9及びH6N4を、5ヵ月齢のネコ3例にそれぞれ感染させた。全例のネコでセロコンバージョンと斑状病変の気管支肺胞管間質性肺炎が認められた。臨床的病状は示されなかった。免疫化学分析ではウイルスは肺胞上皮に局在が確認された。これらの結果より、ネコに対するH1N9及びH6N4の感染力が確認された。
25	日本脳炎	The Pig Site. Jan 5, 2012	インドのブタにおける日本脳炎ウイルスの報告。インドのIndoreからニューデリーに輸送されたブタ3例が、日本脳炎ウイルスに対して陽性反応を示したと報告された。自治体の衛生委員会によると、昨年12月にもニューデリー全域から集められたブタ検体83例中17例に日本脳炎ウイルスが検出された際も、陽性例の大部分がIndore又はGurgaon由来であった。

感染症定期報告感染症別文献一覧表(医療機器) (平成24年4月1日～平成24年9月30日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
26	狂犬病	ProMED-mail 20120223.1050775	ブラジルにおける狂犬病の流行の報告。パラナ州農業食料当局(SEAB)によると、州内陸部各市の農村部の農場を中心に41か所において狂犬病感染が発生し47例の死亡が確認されている。当局担当者は、初期症状が見られたら専門家に相談するよう、生産者らに呼びかけている。2011年にはパラナ州で120例以上の感染が報告されていた。
27	ニパウイルス	PIG PROGRESS. Jun 6, 2012	インドネシアにおけるブタのニパウイルス感染の報告。インドネシア西Kalimantan行政区の畜産健康当局によると、マレーシアとの国境地域の養豚にニパウイルスが流行している。このウイルスはコウモリと蚊を媒介生物としてマレーシアより広がったと考えられた。
28	口蹄疫	OIE 2011 Dec 22	台湾における口蹄疫:発生日 2011年12月19日、最初の確定日 2011年12月20日、報告日 2011年12月22日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年12月19日に台南で口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて、感染の疑い例2667頭、確定例983頭、死亡例0頭、屠殺例983頭であった。
29	口蹄疫	OIE 2012 Mar 6	ロシアにおける口蹄疫:発生日 2012年2月26日、最初の確定日 2012年3月1日、報告日 2012年3月6日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2012年2月26日にPrimorsky Kraiで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ240頭、ヤギ/ヒツジ47頭、ブタ10頭、確定例ウシ7頭、ヤギ/ヒツジ22頭、死亡例ウシ1頭、屠殺例ウシ10頭、ヤギ/ヒツジ24頭であった。
30	口蹄疫	OIE 2012 Apr 11	台北における口蹄疫:発生日 2012年2月16日、最初の確定日 2012年2月18日、報告日 2012年4月11日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2012年3月30日にCHANG-HUAで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて感染の疑い例3055頭、確定例4頭、死亡例0頭、屠殺例0頭であった。
31	ロタウイルス	ProMED-mail 20110928.2935	デンマークにおける人畜共通ロタウイルス感染の報告。2006年、デンマークで成人患者2例のロタウイルスへ感染が発生し、ウイルス株から人獣共通感染が疑われた。2例からはG8P[14]というこのウイルス株が確認され、お互いのウイルス株においてVP7, VP4, VP6及びNSP4遺伝子の核酸塩基配列が一致した。さらに、系統発生的解析により、ウシとヤギに由来するロタウイルスに非常に近縁のウイルスであることが示された。動物のロタウイルスとの高い遺伝学的相関性と、非典型的な疫学上の特徴から、感染したウイルスG8P[14]は、直接的な人畜感染によるものであると示唆された。
32	ウイルス感染	OIE Technical Factsheet. Feb 27, 2012	欧州で発見されたSchmallenbergウイルスの疫学的観察と研究に関する報告。Schmallenbergウイルスは、ブニヤウイルス科オルソブニヤウイルス属であり、エンベロープを持つマイナス一本鎖RNAウイルスである。疫学的調査と血清学的研究によると、本ウイルスは反芻動物に影響を及ぼすが人畜共通感染は引き起こさないことが示されている。伝播は昆虫によって起こり、動物の子宮内で垂直感染することも知られている。臨床症状は動物種によって異なっていたが、多くの反芻動物においてウイルスは先天性奇形を引き起こすことが報告されている。
33	ウイルス感染	Transbound Emerg Dis. 59(2012)85-102	ブタウイルスによる人畜共通感染症に関するレビュー。ニパウイルス、Menangleウイルス、Bungowannahウイルス、ブタE型肝炎ウイルス(HEV)は、ブタに感染するのみでなくヒトにとっても脅威ある人畜共通感染症となり得る。HEVは加熱不十分な豚肉の摂食を介して散発的にヒトに感染し、急性肝炎を引き起こす。また、新興ウイルスであるブタリンパ球向性ヘルペスウイルス(PLHV)及びブタ内在性レトロウイルス(PERV)については、ブタの臓器、組織等を使用した異種移植の際にヒトへの感染の懸念が残る。
34	BSE	Emerging Infectious Diseases. 18(2012)158-159  ProMED-mail 20111207.3543	BSEのウシから発見された新規プリオン蛋白に関する報告。2011年4月、スイスにおいてBSE陽性となったウシ2例より分離されたプリオン蛋白(PrPres)について、エピトープマッピング解析とウエスタンブロット解析を組み合わせて行ったところ、既存のプリオン(C-BSE, H-BSE, L-BSE)とは異なったN末端切断のPrPresが示された。このことから、スイスで発見されたウシ2例が既存の型とは区別されるBSEに罹患していたことが示唆された。現在、確認のためにトランスジェニックマウス及びウシを用いてin vivo試験が実施されている。

感染症定期報告感染症別文献一覧表(医療機器) (平成24年4月1日～平成24年9月30日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
35	BSE	ProMED-mail 20120104.0027-5	スイスにおけるBSE感染の報告。2011年春、スイス国内で新たに2例のBSE感染牛の症例が確認された。8歳及び15歳のウシで、それぞれ別の農場で発見され、検査結果より古典型BSEとは異なるプリオンタンパクが認められた。スイス国立研究所は、当該2例は他国で発見された非定型BSEとも異なるとして、更なる調査を行っている」と述べた。
36	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20120626.1181644 The Pig Site. Jun 25, 2012	ベトナムにおけるブタ連鎖球菌感染の報告。ベトナム北部でブタ繁殖呼吸器障害症候群が拡大している。この影響で、ヒトへのブタ連鎖球菌感染も増加している。国内の熱帯病中央病院には20例以上の患者が入院しており、髄膜炎や敗血症等を併発している。加熱不十分なブタの摂食や直接接触等が感染の原因であることが推察されている。
37	レンサ球菌感染	獣医公衆衛生研究. 13(2010)24-25	東京と畜場におけるブタのStreptococcus suis (S. suis)保有状況に関する報告。平成20年4月から21年11月に東京のと畜場に搬入されたブタを対象とし、S. suis保有状況を調査した。その結果、心内膜炎を認めたブタ39例中31例(79%)において病変部からS. suisが分離された。健康ブタの扁桃でも99例中84例(85%)から同菌が分離された。また、最終洗浄後の豚枝肉では70例中10例(14%)にて検出され、検出された部位は全て頸部であり臀部では分離されなかった。分離株の血清型別分析を行ったところ、病ブタから得られた菌では2型が最も多かったが、枝肉由来菌株においては2型は含まれなかった。ヒトやブタの感染では血清型2型によるものが最も多く、病原性が強いことが知られている。豚枝肉からはS. suisは頸部からのみ検出されたことから、扁桃等にあった菌が処理工程中に付着したと考えられた。
38	レンサ球菌感染	第59回日本化学療法学会西日本支部総会. P219	肝硬変患者における新規血清型のブタレンサ球菌感染の報告。症例1は生豚肉の摂食歴がある66歳男性で、合併症に高血圧、COPD、アルコール性肝硬変があった。来院時に発熱と著明な腹水貯留を呈し、腹水培養陽性、血液培養陰性となった。分離菌株はPCRにより血清型5型のブタレンサ球菌と同定された。症例2は肝硬変がある62歳女性で、発熱を訴え来院、黄疸及び腹水貯留を呈していた。腹水培養陰性、血液培養陽性であり、敗血症と診断された。分離菌はブタレンサ球菌と同定され、血清型は24型であった。
39	レンサ球菌感染	臨床獣医. 30(2012)31-35	山形県の農場におけるブタレンサ球菌ST1complex株の浸潤状況調査の報告。ブタレンサ球菌の中で強毒性株と言われるST1complex株が、2010年9月に山形県内の農場で、神経症状を認めたブタにおいて検出された。これを受けて当該農場における自家産母豚及び導入豚の保菌状況を検査したところ、ST1complex推定株は分離されず、抗体も陰性であった。また、2004年から2011年に山形県の家畜保健衛生所で実施された病性鑑定由来のブタレンサ球菌54株について分子疫学的分類検査を行ったところ、ST1complex推定株は2株(3.7%)であり、県内に広く浸潤していないことが示唆された。
40	炭疽	ProMED-mail 20120126.1023137	アルゼンチンにおける炭疽感染の報告。2012年1月初旬、ブエノスアイレスにおいて炭疽のアウトブレイクが2件発生した。1件目はGuaminiの農場で、ウシ4例が死亡した。2件目はOlavamiaの農場でウシ6例が死亡している。
41	炭疽	ProMED-mail 20120507.1125491	ウクライナにおけるヒト炭疽感染の報告。ウクライナのチェルカスイで、38歳の男性がブタの食肉処理により炭疽に感染したことが、州の非常事態省のプレスサービスから報告された。豚肉処理業者である患者は腕に皮膚病変を発生し、受診先で炭疽を診断された。患者は感染症クリニックに入院し、軽快している。公衆衛生センターは感染源の調査を行っている。
42	炭疽	ProMED-mail 20120525.1143829 OIE 2012 May 28 PIG PROGRESS. May 30, 2012	コロンビアにおける炭疽：発生日 2012年5月15日、最初の確定日 2012年5月25日、報告日 2012年5月28日、原因 炭疽菌。2012年5月15日にLa Guajiraで炭疽のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ6頭、ヤギ93頭、ヒツジ97頭、ブタ6頭、確定例ヤギ8頭、ヒツジ6頭、ブタ2頭、死亡例ヤギ8頭、ヒツジ6頭、ブタ2頭、屠殺例0頭であった。
43	エルシニア感染	J Bacteriol. 194(2012)542-543	フィリピンで分離されたYersinia enterocoliticaのゲノム配列解析に関する報告。フィリピンにおいて、初めてのショットガン法による微生物病原体のゲノム配列解析が報告された。Y. enterocoliticaの亜種であるpalearctica株phRBD_Yellは動物由来として初めてブタから配列が決定された。ブタはY. enterocoliticaの自然宿主である。本株はドイツにおいてヒトから分離された亜種palearctica Y11に最も類似していた。

感染症定期報告感染症別文献一覧表(医療機器) (平成24年4月1日～平成24年9月30日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
44	ブルセラ症	OIE 2011 November 10	ドイツにおけるブルセラ症:発生日 2011年11月7日、最初の確定日 2011年11月9日、報告日 2011年11月9日、原因 <i>Brucella suis</i> 。2011年11月7日にSchleswig-Holstein州でブルセラ症のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて、感染の疑い例1020頭、確定例1頭、死亡例0頭、屠殺例0頭であった。
45	ブルセラ症	ProMED-mail 20120612.1326	中国におけるブルセラ症のアウトブレイクの報告。中国北東部の黒龍江省で働く酪農家の間で、ブルセラ症の感染が確認されている。2012年3月の検査で11例が確認され、その後の検査では26例の患者及びウシ600例の感染も判明した。報道によると、1996年から2011年までに、中国国内のブルセラ症の発生が30倍近く増加していると報告されている。
46	ブルセラ症	ProMED-mail 20120416.1103073 AASV News Alert. Apr 18, 2012 PIG PROGRESS. Apr	米国におけるブタのブルセラ症の報告。ノースカロライナ州の野生ブタにおいて、数年前の検査開始以来初めて、 <i>Brucella suis</i> 陽性例が報告された。Johnston群で調査された野生ブタの約9%が陽性となったほか、州内のランダムに選ばれた他の13カ所での調査でも陽性が1%未満の割合で確認された。
47	細菌感染	AASV News Alert. Mar 7, 2012 The Pig Site. Mar 12, 2012	米国のブタにおける丹毒の増加の報告。2012年2月の全米豚生産者協議会にて、丹毒の臨床的な所見を示すブタが増加していることが報告された。米国中南部の複数のと畜場が、2012年1-2月の間に丹毒との関連が疑われる死亡が増加したと報告している。現在、安全性監視が継続中であり、情報の評価が進んでいる。
48	旋毛虫症	ProMED-mail 20120323.1079129 PIG PROGRESS. Mar 26, 2012	チリにおける旋毛虫症発生の報告。チリ保健当局によると、Chiloe島で行った調査により9例の旋毛虫感染が確定し、6例の感染が疑われているとされた。多くの患者は、違法に処理された豚肉の摂食が原因であると推測されている。
49	旋毛虫症	ProMED-mail 20120512.1131171	アルゼンチンにおける旋毛虫症の報告。アルゼンチンのJunin de los Andes地方で、旋毛虫症の家庭内アウトブレイクが発生した。患者は7例で、うち4例が現地、残り3例が他地域の住民だったが同じ家族の一員であった。また、Ticino地方においても3例の患者の旋毛虫症が確認されている。
50	感染	Emerging Infectious Diseases. 18(2012)838-841	ヒト腸内に寄生するDientamoeba fragilisの自然宿主に関する報告。人間の一般の腸内寄生虫であるD. fragilisの伝播ルートと自然宿主としてのブタとの関連を検討するために、ブタ糞便検体152例について顕微鏡検査と分子学的手法によって調査した。その結果、検体中にD. fragilisが確認され、ブタが自然宿主であることが示された。また、同じ農場のヒト及びブタから分離されたD. fragili株の遺伝子配列を分析したところ、遺伝子型の相同性が示されたことから、D. fragiliが人畜共通感染性を有する可能性が示された。
51	感染	Parasitology. 138(2011)1369-1371	チェコにおけるブタのToxoplasma gondii及びNeospora caninumの陽性率に関する報告。2010年6月、チェコの健康雌ブタ551例を対象に、血清中のT. gondii抗体及びN. caninum抗体の調査を行った。その結果、198例(36%)でT. gondiiの抗体が陽性であり、地域ごとの陽性率は18～75%であった。16例(3%)でN. caninum抗体が検出され、陽性ブタがいたのは4つの地域であった。8例(1.5%)では混合感染が疑われた。本調査の結果、チェコにおいてブタはT. gondiiにたいして比較的高い血清陽性率を持つ一方でN. caninumに対する陽性率は低かった。N. caninum抗体の検出は、チェコにおける初めての報告である。